



# 夏の思い出キャンプ体験

横浜市緑区青少年指導員連絡協議会 会長 松浦 正義

緑区では、11地区それぞれ地域に根差した活動を行っています。その中で2地区(鴨居地区・長津田地区)の活動を紹介します。

## 【鴨居地区】

毎年夏休みに小学生を対象に「ワクワクキャンプ」を1泊2日で開催しています。日帰り、宿泊合わせて、総勢約200名の児童が参加します。児童たちの面倒を見てもらうJRリーダーを東鴨居中と鴨居中の生徒から募りますが、抽選する程の人気ぶりです。

キャンプでは体育館や校庭でゲームをした後、カレーを作って食べ、夜にはキャンプファイヤーの周りでフォークダンスを踊ったり、ゲームをしたり、鴨居小おやじの会によるミニコンサートで盛り上がります。体育館で映画鑑賞し、就寝は体育館で雑魚寝ですが、子どもたちは楽しくてなかなか寝てくれません。翌朝、青少年指導員特製のホットドッグで朝食を取り、宿泊組の解散でキャンプの終了です。



## 【長津田地区】



猛暑の中、熱中症に注意し、デイキャンプを長津田地区センターで行いました。カレー作りは4グループに、飯盒炊飯は1グループに編成しました。カレーはビーフ、ポーク、チキン、野菜の4種類を作りました。飯盒炊飯グループでは、お米とぎ、水加減等もすべて小学生主体で行いました。

そして夕食では、カレーを4杯もお代わりする食欲旺盛な子、スイカ割りでは反対方向へ行ってしまう子もいました。最後はちょっと怖い神社境内で、肝試しを行いました。



# 今の小田原について

小田原市青少年育成推進員協議会 会長 大川 良則

小田原市青少年育成推進員協議会は、現在11中学校区、4実行委員会、118名で活動しています。協議会の事業としては、各々の実行委員会が小学校5～6年生対象の『地域少年リーダー養成講座』、中高生対象の『東日本被災地スタディツアー』、『中学生の主張発表』、年間4回の広報紙発行などを行っています。そして、各中学校区は全体研修を兼ねる定例会を年5～6回(各中学校区が2年間で1度は担当する)を開催し、更に街頭指導を概ね毎月2～4回の頻度で実施しています。また、『成人式』や『青少年と育成者の集い』など小田原市が関わる青少年の健全育成事業に協力しています。

さて、養成講座は約130名が参加する事業ですが、今年から若干手狭な施設に変更となりました。実行委員会では試行錯誤を繰り返しながら今年度のテーマを『はばたけ! 森のニンジャ部隊!!』と決め、川渡りの術や紙手裏剣作りなど7つのプログラムを実施する予定であります。また、スタディツアーは情熱と企画以外何もない処からのスタートでした。資金は市内の皆様へ企画と目的を説明し、ご理解とご協力を頂きました。被災地との交渉やポスター作りなど全てが手探り状態で進め実現しました。大きく条件が変化したり、新たに始めるなどの困難な状況の事業を進める中で、参加者にも大きな成果を確信すると同時に、実施する推進員も大きな資質の向上と自信を持ち、今後の活動の糧となると思います。



※今年のスタディツアーで、東北大学総合学術博物館前での記念写真です。ここでは、被災地の震災当時の状況を3Dで体験しました。